

## 県民健康教育講座について

愛知県産婦人科医会は愛知県医師会と協力して、県民の健康を推進する活動を行っており、毎年、健康教育講座の七月を担当しております。今年度は7月23日に出生前診断に詳しい、会員の種村光代先生が「超音波で胎児を診察する」と題して講演しました。要旨を掲載いたします。

## 超音波で胎児を診察する。

産科婦人科種村ウィメンズクリニック 種村光代

日本では、妊娠の早い時期から頻回に超音波検査が実施されています。今や、産婦人科医にとって超音波機器は、内科医にとっての聴診器と変わらないものになりました。一方、妊娠したお母さんやお父さんにとっても、超音波検査はまだ見ぬ赤ちゃんの元気な姿を映し出してくれる、楽しみな検査の一つでしょう。まだ数センチの胎児が動き回る姿は、誰が見ても妊娠の喜びを実感できて、つわりの苦しさも吹き飛びます。

しかし、こんな妊娠初期に、NTという言葉で赤ちゃんを評価されて、妊娠継続の不安を抱く妊婦さんも最近では少なくないようです。NT、エヌティ、nuchal translucency、胎児項部透過像・・・、いろいろと呼ばれていますが、これらはいずれも同じ、胎児の項部の超音波での見え方を意味しています。英語のnuchal translucencyを省略してNTと呼び、日本でも一番よく使用されています。

赤ちゃんの元気な姿を観察するつもりで超音波を見ていたら、主治医の先生から突然、「赤ちゃんの首にむくみがある。」とか「NTが厚いね。」という説明を受けて、ご両親は訳もわからずどうしたらよいのか悩んでしまうようです。しかし、妊娠初期の胎児のNTは必ずしも病気ではありません。正常な胎児に認めることも少なくありませんし、胎児の向きやちょっとした姿勢の変化で数値が大きく変わってしまうデリケートな検査でもあります。

ただ、主治医の先生が妊婦さんにNTについてご説明するにはそ

れなりの理由があります。つまり、正確に測定されたNTが通常よりも厚めであった場合には、赤ちゃんの染色体異常という病気の可能性が高まる傾向があるためです。ですから、本来は、事前にNTについてご両親に十分な情報提供をしてから検査が行われているべきでしょう。しかし、実際には、一般の妊婦健診の超音波検査で偶然に発見されてしまうことも多いので、社会的な混乱が生じています。

妊娠中の超音波検査で認められる、このような胎児のサインをソフトマーカと呼び、例えば胎児の鼻の骨がしっかりと観察できるかどうか、心臓の中にきらりと光るエコーが見えないか、大腿骨の長さが短めではないかなど、妊娠中期までに相当たくさんのサインが存在します。欧米諸国では、これらのソフトマーカの検査を受けることが一般的になってきています。しかし、日本では、このサインを観察する超音波検査技術をどのように妊婦さんに提供してゆくべきか、はっきりとした基準がまだありません。したがって、ほかの病院に通っていればNTやソフトマーカという説明を受けなかったかもしれません。あるいは、何も指摘されなかったお母さんたちのお腹の赤ちゃんにはNTがない、みんな正常、という訳でもないのです。

最近では妊娠中の超音波検査についてもインフォームド・コンセントを得るべきであると言われていています。署名捺印までもらう必要はないかもしれませんが、妊婦さんと超音波検査のあり方についてゆっくりとお話できる時間のゆとりを持ちたいものです。性別を知りたくないという妊婦さんがいるのと同様に、ダウン症や先天異常などのスクリーニング検査は希望しないという方もいるはずです。

NTに限らず、超音波検査は皆さんに多くの情報をもたらします。NTはご両親にとって妊娠、出産、子育ての最初のハードルになるかもしれませんが、超音波検査で赤ちゃんのほほえましい姿を見て、ほっと心が安らぐこともあるはずです。そして、超音波検査が胎児の病気の診断や治療を安全に遂行するのに欠かせないことも事実です。NT測定が、そして超音波検査がすべての赤ちゃん、お母さん、お父さんにとって有意義な医療技術になることを期待しています。